

## II 西東京市教育委員会の取組について

### 1 スーパー食育スクール事業 西東京市推進委員会の委員一覧・年間計画

#### (1) スーパー食育スクール事業 西東京市推進委員会委員一覧

東京都教育庁指導部指導企画課指導主事  
西東京市教育委員会教育指導課指導主事  
西東京市教育委員会教育指導課指導係長  
日本体育大学准教授  
地場農産物生産者代表  
漁港漁場漁村総合研究所  
西東京市立田無小学校長  
西東京市立田無小学校副校長  
西東京市立田無小学校主幹教諭  
西東京市立田無小学校研究主任  
西東京市立田無小学校栄養教諭  
西東京市立田無小学校運営連絡委員会代表  
西東京市立田無小学校PTA会長  
西東京市立田無小学校PTA副会長

#### (2) スーパー食育スクール事業 西東京市推進委員会年間計画

スーパー食育スクール事業西東京市推進委員会を年間3回開催し、大学・東京都教育庁・生産者・田無小学校関係者等多様な委員を活用し、田無小学校の事業テーマである「体力の向上を目指した食育プログラムの開発と効果検証」についての効果検証を行い、基本的な生活習慣の改善（運動→空腹感→栄養バランスの良い食事の摂取→運動）による効果的な食育プログラムの作成を目指す。

### 2 スーパー食育スクール事業 西東京市推進委員会の取組概要

「スーパー食育スクール事業 西東京市推進委員会」を年3回、7月・10月・1月に実施した。

第1回では、委員の紹介や事業計画書の説明を行い、第2回では中間報告書の内容説明及び評価指標や評価方法の確認等を行った。第3回では、田無小学校におけるスーパー食育スクール事業の成果や分析結果に基づいた食育プログラムの報告を行った。

なお、各回の内容は以下のとおりである。

#### (1) 第1回西東京市推進委員会

日時：平成27年7月22日（水）10：00から11：30まで 会場：西東京市立田無小学校

各委員の自己紹介を行った後、西東京市立田無小学校におけるスーパー食育スクール事業の取組テーマである「体力の向上を目指した食育プログラムの開発と効果検証」の具体的な取組方法、効果の検証方法及び年間計画などについて、事業計画書に沿って説明した。

その後、意見交換が行われたが、専門家より、「農薬や食品添加物に関する主婦とがん疫学専門家の意識調査を行ったところ、主婦の感覚では、農薬や食品添加物によるガン発生のリスクは非常に高いと感じているが、がん疫学専門家たちは、その影響はほぼ皆無としかみていない。また、欧米人の高齢者の肥満度が高い理由として、欧米人は高齢になっても味覚が変化しないため、年をとっても若いときと同じ食生活をするためである可能性が高い。しかし、日本人については、年を経るにつれ味覚が変化し、しつこいものを嫌うようになっていくため、高齢者の肥満度が低かったが、近年食生活の変化により徐々に欧米化が進んでいる。」といった意見が出された。続けて、「誤った

知識や感覚で生活を送るのではなく、今こそ食育の大切さを認識して、子供たちに正しく伝えるには、非常に良い機会を与えてくれた」などスーパー食育スクール事業に対する肯定的な意見が交わされた。

(2) 第2回西東京市推進委員会

日時：平成27年10月21日（水）15：00から16：30まで 会場：西東京市立田無小学校

第2回では、サケの解体、カツオの1本釣り、シイタケ栽培、なす・ピーマンの栽培、手打ちうどん、地場農産物を活用したデザート作り等により、食の大切さ（栽培→収穫→調理→残さず食べる）を、タグラグビー、短・長縄キャンペーン、はつらつタイム、体づくり運動、万歩計の使用等により、運動の大切さを学び、また、それらを理論として学ぶ授業を通して、目指す目標の現在までの活動実績を報告した。

実質6か月の事業なので、そんなに短期間での成果が本当に出るのか、各委員から懸念の声が上がった。

これらの意見に対し、子供たちの体温について定期的に測っているが、以前は低い体温の子供がかなりいたが、直近の計測では、かなり減っており体温の上昇を感じられ、また、給食の食べ残し率も4月時点の5.5%から9月は天候不順にもかかわらず4.5%と1ポイントの改善していることについても報告した。

各委員とも最終報告において評価指標を達成できることに期待を示すとともに、学校の取組について支援することを確認した。

(3) 第3回西東京市推進委員会

日時：平成28年1月14日（木）9：30から11：00まで 会場：西東京市立田無小学校

第3回目の推進委員会では、田無小学校における「スーパー食育スクール事業」の第2回推進委員会から事業完了までの活動実績を報告した。事業目標であった「食育による体力向上」については、データを分析した結果、効果があるとは、断言できないとの報告があった。

しかし、分析した専門委員より「食育による体力向上」については確定できなかったが、「体力が向上した児童については、食育が反映されていた」と、効果がないわけではなく、一定の効果があった旨付言がなされた。

最終報告では、成果指標だけではなく、体温の上昇、食べ残し率の減少、遅刻児童数の減少等、基本的な生活習慣を改めることにより、日常生活の様々な面においてよい効果が出ていることについても報告された。

それは、「はつらつアンケート」の集計結果を見ても明らかであった。

学校関係の委員からは「家でも食べ残しが少なくなったり、体を動かすようになったことが実感できた。」等、専門家の委員からは、「体力向上には体を動かすことが大事であるが、体育とかスポーツは練習中心でやるよりも、特に低学年のときはゲーム形式で行うほうが子供たちは集中しやすい」「伸びた数値よりも、やれば出来るという自己肯定感植えつけるほめ方をして欲しい。」等の意見が出されるとともに、主体となってこの事業を進めた栄養教諭は、「校内研究を通じて4年目の集大成として、この事業に尽力したが、このままで終わらず、この成果をこれからの学校教育に生かして欲しい。」と述べた。

### 3 その他の取組

西東京市教育委員会では、生活の根本である食育について、食育を通して学校・家庭・地域のつながりを大切にし、児童・生徒が健康で活力ある生活を送ることができるよう地産地消の安全な給食を推奨

するなど、支援を行っている。

「スーパー食育スクール事業」を実施するに当たり、西東京市教育委員会として事業実施中は、会計の確認、東京都教育委員会との調整に務めた。

また、西東京市推進委員会や東京都スーパー食育スクール推進委員会のメンバーとなり意見・情報の交換を行った。

西東京市の学校教育活動全体の中で食育を進めていくためにも、この成果を広めるための報告会や研修会を支援し、より健康的で活力のある児童・生徒の成長を支援する。

## 西東京市の食育

西東京市では、『食が織りなす、豊かな暮らしのあるまち』を将来像とし、以下の三つの基本目標に沿って取り組んでいます。

- 基本目標1      食の自立と健康的な生活を実践する取組の充実  
                    ～毎食 バランスよく みんなで楽しく 食べます～
  
- 基本目標2      農の理解を通じた食を大切に作る心の育成  
                    ～めぐみとまごころに感謝し 大切に 食べます～
  
- 基本目標3      人と人とのつながりによる広がりある食育の推進  
                    ～伝えあい 守り育てながら 食べます～

この基本目標を達成するために、学童期の行動指針として、以下のことを定めている。

### ■食の体験を拡げ選ぶ力を付ける。

- ① 子供が自ら振り返り、自己の課題に気付き、健康への意欲、態度を育てる。
- ② 家族ぐるみで望ましい食習慣を形成する。

